

仕事の効率、生産性アップ 外注3割減

貴重な通勤・移動時間短縮へ

豪雪地帯、通勤に2時間も

2004年に青森市で開業、チラシやフライヤーなどの紙媒体、ウェブサイトなどのデジタル媒体、その他広告物の企画・デザイン・制作・活用提案、さらに継続的な運用支援を手がけています。青森は豪雪地帯だけに冬場は通勤時間が2時間以上かかることもあり、この通勤・移動時間が短縮できたら、と考えていました。16年秋、遠距離に住み、外注委託先だった橋本英樹さんと、1カ月の半分程度を仕事していただく契約を締結。18年1月からは本格的にテレワーク制度を導入しました。現在、2人のスタッフは事務所から約100キロ離れた地域に住んでいますが、インターネット電話やさまざまなツールを活用し、作業内容を確認・報告しています。



テレワークを導入した
ディーシーティーデザインの蛸名晶子代表

人材の選択の幅広がる

テレワーク導入後は通勤時間が不要となり、仕事の効率は良く、生産性も上がりました。外注件数も2~3割ほど減り、何よりも人材選択の幅が広がりました。スタッフも時間が有効に活用でき、家族との団らんや趣味も増えたと聞いております。2カ月に1回は食事会も兼ねて顔を合わせます。インターネットの良い点は、実際に出向かなくても成果物のやりとりができることです。ただ、地方ではそういう働き方の意識が行き届いていなかったり、テレワークの周知不足やテレワークを可能にするネット環境の未整備などの課題もあります。

家族と過ごす時間が増加

どこにいても仕事はできと思っていた

インターネット関連の会社に勤めた後、フリーランスを経て、取引先だった現在の会社でエンジニアとして働いています。現在は会社から約2時間離れた自宅で、ウェブ制作やホームページを管理・更新する「CMS」の構築などを担当しています。以前の会社では、ネット関連の仕事をするのに、毎日出勤する必要があるのか、どこにいても仕事ができるのではないかと感じていました。テレワークという言葉は知っていましたが、まさか自分がそれを活用するとは思っていませんでした。



テレワークを実際に利用している橋本英樹さん

しっかり自己管理できる人でなければ務まらない

フリーの時は40分をかけて隣町の貸し事務所に通っていましたが、それも不要となり、時間を有効に使えるようになり、1人での作業なので仕事への集中力も高まりました。よくリモートワークになれば何でも自由にできると誤解されがちですが、会社勤めのように定時にデスクに座り、常時スカイプを通して同僚とやりとりをしています。ですから、自己管理がしっかりできる人でなければ務まらないと感じています。何よりも家族との時間が持てるようになり、特に娘とは送り迎えや会話が增え、野菜づくりもするようになりました。ただ、近所の方に、会社に行かなくても大丈夫かと心配されたのには少々困りましたが(笑)。